

四旬節 2022 年



親愛なる姉妹の皆さま

教会が繰り返し語っているように、主は私たちに四旬節という聖なる季節を過ごす恵みを与えてくださいます。それは偉大なご復活の出来事のために私たちが自己の信仰を振り返り、ご復活を迎える準備をしなければならない期間だからです。つまり私たち自身、個人的また共同体的にもこの四旬節をどのように生きるかについて問われています。教会は私たちに気づかせるため灰の水曜日の福音書、マタイ 6：1-6. 16-18 を 3つの柱として位置づけています。

この福音書においてイエスは、私たちに 3つの柱、**祈り**、**断食**、**施し**というキリスト者としてのあるべき姿・生き方を示します。そしてイエスは、私たちにも虚栄心のない、謙虚でシンプルな方法で主ご自身に倣うことを望まれておられるのです。

イエスは、私たちを素朴で親密で深い隠された神秘的な**祈り**に招き入れます。私たちは、その祈りの中で、イエスの眼差しと、み心だけを求めてイエスと対話をします。私たちは主の言葉に耳を傾け、主が私たちに望んでいることに気づかされる祈りです。この祈りの時間に私たちは、すべての兄弟たちの必要、全人類が経験している困難な状況、宗教的、政治的、そして経済的状況を念頭に置きます。

私たちが行う**苦行**は、ファリサイ人や徴税人が行ったような外面的なものではなく、むしろ隣人、特に苦しんでいる人の立場に身を置き、私たちの態度や行動を見直し、進んで自分自身を与え、他者を助けたいという望みをもつことです。私たちの生活を複雑化し平和を失わせる多くの事柄からの断食、私たちと他者に害を及ぼす物事から遠ざけられますように。多くの失望や不安、誘惑、無関心からの断食、そしてすべての人を兄弟・姉妹として自身の心をひらき受け入れることができますように。

イエスが望んでいる**施し**は、私たちの隣人、最も身近な人、苦しんでいる人、孤独・病気の人、そして高齢の兄弟・姉妹の必要に気づき心をあげ渡すことです。彼らに寄り添い、自分の時間を捧げて慰めと励まし、優しさ、笑

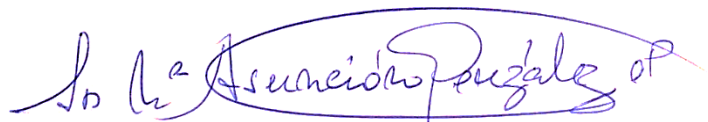
顔、声かけなどで無関心の中で苦悩する彼らを幸せにすることができからです。

この四旬節の季節に主の憐れみに倣い私たちが愛、思いやり、優しさ、許し、そしてすべての人に寛大な心を示すことができるよう主に祈り求めましょう。

四旬節の旅の導き手であるマリアが、死んで葬られ復活されたキリストをこれまで以上に私たちに深く悟らせ導いてくさいますように。御子の忠実な僕であるマリアは、今もいつも私たち一人ひとりために執り成しをしてくださっておられます。

姉妹の皆さんが、聖なる四旬節とご復活をよりよく過ごされますようお祈りします。

姉妹的抱擁と祈りをそえて。

A handwritten signature in purple ink that reads "Srta. Asuncion Gonzalez O.P." The signature is written in a cursive style with a large, sweeping flourish at the end.

総長 ソール マリア アスンシオン ゴンザレス, O.P.